目標
- 文章の中心的な部分に着目し、内容を捉える。
- 文章の構成を捉え、要約に生かす。
- 「脳の奇妙な癖」を理解し、筆者の考えをまとめる。

自分の脳を知っていますか

池谷（いけがや） 裕二（ゆうじ）

食堂で何を注文しようか、次の休日に何をしようか、将来はどんな仕事をしようか——。私たちは生活の中でいろいろなことを決断しています。

何かを決断するときに、参考になりそうな要素はいくらでもあります。あれこれ全てを考えていては際限がありませんから、参

まなびリンク 34－1

・A4の用紙で印刷してください。

・点線で切ると実際の大きさになります。

考にすべき要素を選びながら決断しなくてはなりません。では、その場で最も適切と思われる要素を、人はどのように選ぶのでしょうか。それには、脳のどのようなはたらきが関わっているのでしょうか。この疑問を問うことで脳の奇妙（きみょう）な癖（くせ）が理解できます。

次の実験例を見てみましょう。大好きなクッキーを選ぶ実験です。

実験①では二枚のクッキーがあります。クッキーAとクッキーBは、置き方が異なりますが、同じクッキーです。この場合、当

▼妙　▼癖

意 要素　意 際限　類 奇妙

34－2　35－1　自分の脳を知っていますか

・A4の用紙で印刷してください。

・点線で切ると実際の大きさになります。

然ですが両者は半々の割合で選ばれます。

▼実験①

クッキーA

クッキーB

▼実験②

クッキーA

クッキーC

クッキーB

35－2

・A4の用紙で印刷してください。

・点線で切ると実際の大きさになります。

では、実験②のように、新たにクッキーCを並べて、三枚にしたらどうでしょう。さすがに小さなクッキーCを選ぶ人はいませんが、意外なことに、クッキーAを選ぶ人が減り、クッキーBを選ぶ人が増えます。これは「おとり効果」と呼ばれます。ここでは、クッキーCがおとりの役割をしています。それ自体は選ばれることのないクッキーCですが、そこに存在することで、人の判断を変えてしまう現象です。

なぜこのような判断をするのでしょう。ヒトはいくつかの要素を比較(ひかく)して、少しでも得なほうを選ぼうとします。ここでは、一目で判断できる要素である、「幅(はば)」と「高さ」に着目します。

▼較

文 さすがに……ない　文 意外なことに　考 比較する

36－1

・A4の用紙で印刷してください。

・点線で切ると実際の大きさになります。